

石造仁王

豊後高田市には、仁王あるいは金剛力士として知られる 140 体以上の石像があります。これらの石像は筋骨隆々とした身体といかめしい顔つきが特徴で、たいていは仏教寺院の入口に見られ、邪悪な霊や悪鬼を追い払っています。通常は2体1組になっており、1体は口を開け阿形、もう1体は閉じています吽形。

豊後高田市は、仁王石像の数が日本で最大規模の都市です。国東半島には、いずれも現地成火山岩である、安山岩や凝灰岩などの地質要素が見られます。仏教の彫刻家や石工は仁王像を造るのによくこれらの岩を使用しました。

豊後高田市の仁王像の大半は江戸時代（1603 年～1868 年）にまでさかのぼります。それらの仁王像は自由な様式でデザインされ、造られたため、それぞれの像に独自の特徴があり、魅力が増しています。旅行者は仁王像めぐりをして、顔つきがそれぞれ異なる、この地域のたくさんの守護者を探しに出ることができます。